

# 保護者と連携

協働して子どもを育てるには

# 特別な支援を必要とする子ども(例)

特殊教育の対象は5%

(特別支援学校、学級、通級)  
文部科学省(2019)

身体障害  
知的障害

発達障害特性

(通常学級に6.5%)

R2調査予定

二次障害

反応性アタッチメント障害  
非行  
精神疾患

二次的な問題

いじめ  
不登校  
問題行動

外国籍

英才児

(ギフテッド)

親の問題

LGBT

(性的少数者)

小中児童生徒:959万人

# インクルーシブ教育システムの概念図

地域(保健圏域など)

連携  
・保護者  
・関係機関  
校内体制

個別計画  
支援会議

特別な場での教育

特別支援学校

特別支援学級  
通級指導教室

子どものニーズにあつたカリキュラム  
(カリキュラムの修正)

合理的配慮・基準の変更  
段階的な対応  
障害特性にあつた指導

特別な対応

交流・通級

学習のユニバーサル  
デザイン(UDL)

通常学級での基本的対応

自己肯定感・自己決定

教育サービスの連続性

どの場であろうと子どもを伸ばす

# 保護者との連携

文部科学省ガイドライン(2004)

## 1. 担任

- 保護者との情報交換
- 保護者とコーディネータとのチームでの話し合い
- 保護者への説明: 個別の教育(保育)支援計画

## 2. コーディネーター

- 関係者、機関との連絡調整
- 保護者に対する相談窓口
- 担任へのコンサルテーション

コーディネーターが中心に支援チーム、話し合いで対応を

# 1. 事例で学ぶ保護者面談

# 事例(1)

- 「うちの子は障害児ではありません。ただ、早生まれで、ほかの子より少し発達が遅いだけです」
- 「落ち着きがないのは父親譲りです。お父さんも小さい頃落ち着きがなく勉強が苦手だったそうですが、今はちゃんと仕事をしています」
- 「ですから、特別扱いはしないでください。みんなと同じように活動させてください。家では、まったく問題ないのですから」

# 保護者への説明(基本)

- 行動、対人関係について、ということが問題かを具体的に説明する
  - データを示す(検査結果、行動観察、映像)
- 一斉指導(通常の指導)では困難であることを話す
- 子どものために特別な指導や、専門機関の判断が必要であることを話す

障害の可能性を必ずしも言う必要はない  
問題へのより専門的な介入の必要性を訴える

# 事例(1)の場合

- 発達段階や学校での様子をデータに基づいて説明する

発達検査、学力、行動記録、映像

- 今までの学校の対応と結果を説明する

「個別に注意すると一度は座りますが、すぐに立って飛び出します」

- 残っている問題と必要な対応を告げる

「集中して学習できないと、学力にも影響しますので、個別に指導します」「専門機関に行かれては?」  
「一度学校に見にいらしては?」



# 保護者への対応：緊急の課題

- 大事な話は両親を呼んで話す
- 父親に向かって話す（もちろん両親そろっている場合）
- 事実を告げる役割、支援する役割の分担

「問題が長く続くことは、  
お子さんにとってよくない  
ことですよ」

**管理職**

「私どもがついていますから、  
安心してください」

**担任によるフォロー**

子どもを心配し、役割分担で、継続対応

# 父親への対応（役割）

- 父親の存在の意義を伝える

しつけ・教育・将来にとって、父親の役割は一番重要

- 学校のルールを守ることを**ことば**で教える

暴力は絶対に使わない（体罰の禁止）

- 守ることを父と約束

1. 父親と約束を堅く交わすこと
2. 約束が守れたら、十分誉めてあげること
3. 守れないとき厳しく戒める

父親が変われば母親は変わり、子どもも変わる

# 父親を対象とした研究から

- 幼児期
  - 子どもと遊ぶことで言語発達や社会性育成に効果
- 学齢期
  - 子どもとじっくりかかわることで問題行動抑制に効果
- 思春期
  - 父親の存在が逸脱行動を抑制し、情緒と生活の安定に効果
  - 特に女子の場合は性的逸脱抑制の効果がある

## 事例(2)

- 「確かに、うちの子は自閉症で人とのやりとりがうまくできません」
- 「でも、わからなくても一緒に同じことをさせることで、いつかはできるようになりますから、みんなと同じにしてください」
- 「みんなと違うことをさせるのは、差別です」

# 対応の基本

- 訴えをじっくり聴く

うなずく、話を復唱する、最後まで聴く

- 要求していることを具体的に理解する

積極的に質問し、何を望んでいるかを知る

- 事実と主観を区別する

ひどいことを言われた(主観)、「帰れ」と言われた(事実)

聴く、理解する、訴えを具体的に分析する

# 対応の基本（続き）

- 願いを知る

子どもにどうなって欲しいのか、願いを丁寧に聞く

- 「できない」ではなく「どうすればできるか」を一緒に考える

少しでも可能性のある対応を具体的にひとつひとつ検討する

- できることとできないことを明確に説明する

できることは自分から提案し、できないことは理由を言って断ること。曖昧にしない

願いを知り、考え、説明する

# 事例(2)の場合

- 学校で対応して欲しいことを聴く

できないこと、妥当ではないこともすべて聴き、否定しない

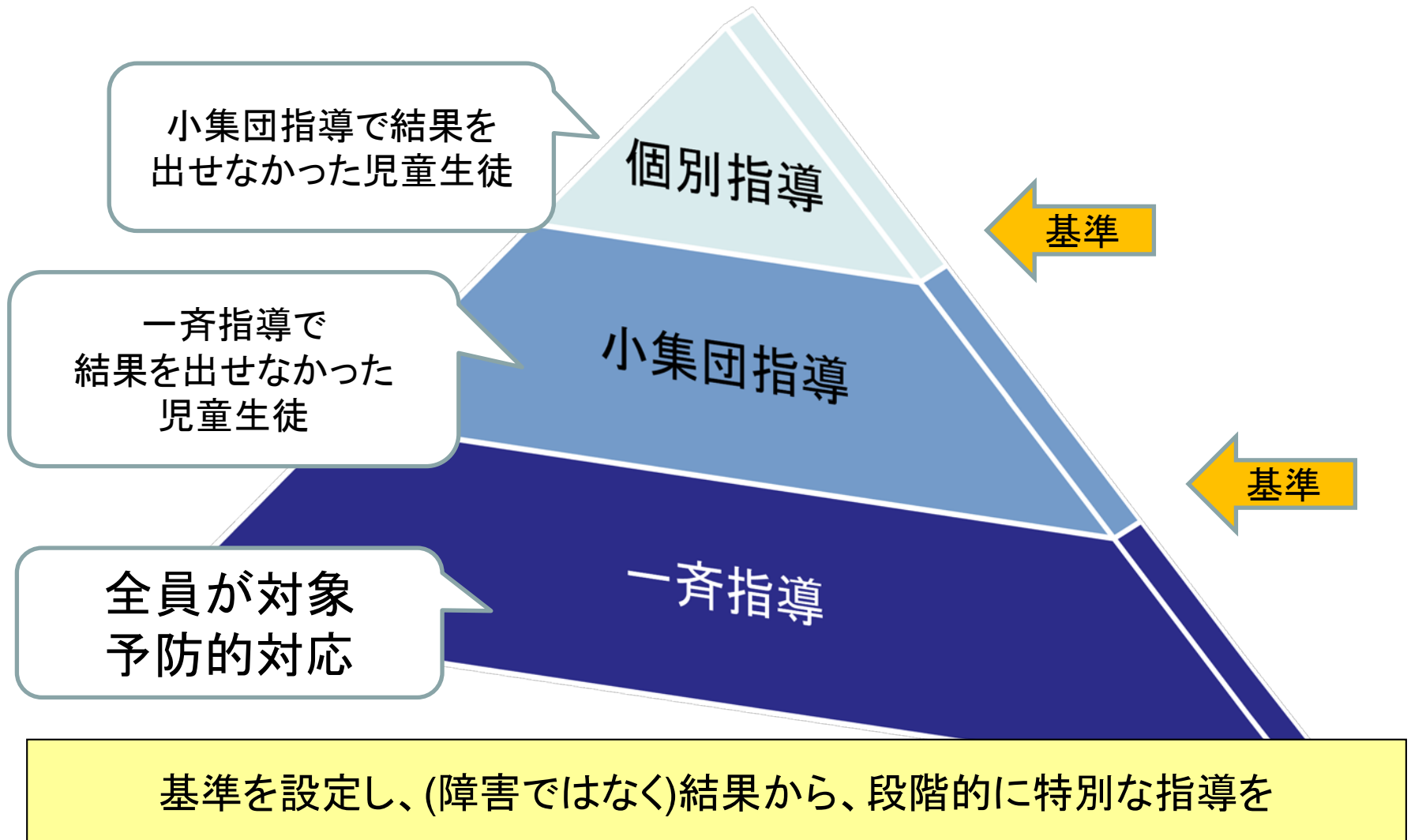
- 子どもにどうなって欲しいか、長期短期両方の展望を聴く

「みんなで協力して、作品を作れることは大切ですね。  
現在は一人で絵を描くことができるようになりました。  
次は相手と一緒に作業することが目標。必要なことを考えましょう」

- 達成のために必要な対応を一緒に考える

「〇〇さんと一緒に、切ったり貼ったりすることを目標にしては？」  
「家庭でも、切り絵や貼り絵をしていただけますか？」

# (参考)特別な指導へ





# 就学支援の場合

- 通常学級で「できない」から入れられる、のではない

特殊学級や養護学校ではないことを強調

- 特別な場の利用は権利である

利用→子どもの利益になる。能力を伸ばすことができる

- 情報を提供し、自己決定を

必要な客観的情報を与える。最後は保護者(本人)が決める

- いじめや偏見への不安に対処する

疑問や悩み、不安には丁寧に対応し、具体的な方策を示す

# 続き

## 1. 保護者のニーズを聴く

まずは十分に語っていただきます。

## 2. 必要な情報を提示する

制度、検査の解釈、教育措置の選択肢・・・

## 3. 保護者の疑問や悩みに対応する

主観をできるだけ排除し、可能性のある情報を再提示

## 4. 次回までの課題を整理する

結論を急がず、保護者が納得するまでつきあうこと

中・長期的な展望を持つことも伝える(将来の進路)

# 情報の提示(例)

- 特別支援教育についての概要
  - － 通常学級中心の制度、支援学級・学校の位置づけ
- 就学支援制度
  - － 親の権利、合理的配慮、サービス提供の限界
- 考えられる選択肢
  - － 複数提示、メリットとデメリットを明確に
- 継続的対応の保障
  - － 就学相談、入学後の教育措置の変更まで言及

# 入学までの流れ

## 1. 教育相談

- － 相談機関、特別支援学校・学級など

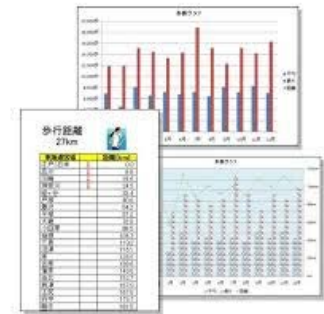
## 2. 就学時健診

- － 個別検査、情報収集

## 3. 就学支援委員会

## 4. 就学相談

- － 就学支援委員会の決定を受け最終決定



保護者:早い段階から関係機関を利用し、早めに情報収集を

# (続き)

## 4. 保護者:学校訪問

- 保護者の考えを述べる
- 文書、今までの書類等(相談支援ファイル)持参

## 5. 個別の教育支援計画作成

- 保護者の要望に基づき、作成
- インフォームドコンセント



© Can Stock Photo

## 6. 入学後の話し合い

- 支援計画に基づき、学校生活が保障されているかどうか評価会議を開催

学校との話し合いは必要。できることとできないことを見極める

## 事例(3)

- 「家では何も手がかりません。一人でゲームをして過ごしています」
- 「休みの日ですか？ みんなで近くの大型スーパーに行きます」
- 「父親のかかわりですか？ はい、よく遊んでくれます。一緒にゲームをしています。うちには子どもが二人いる状態ですね(笑)」

# 対応の基本

- 現在の対応を受け入れる

子どもが安心して生活できる家庭を評価する

- 子どもの願いを伝える

両親と、遊んだり、触れあったりすること(事前に聴く)

- 遊びを提案する

昔ながらの遊び、スキンシップ、カードゲーム  
学校でしている遊び、年齢相応の遊び

親の努力を認める、できることを提案し、選んでもらう

# 事例(3)の場合

- 現在の対応を受け入れる

家庭が一番安心できて、落ち着いて遊べるんですね

- 子どもの願いを伝える

お父さん、お母さんと、散歩したり、トランプしたいって、言っていました

- 遊びを提案する

今、学校ではトランプが人気があり、〇〇さんも好きなんですよ

遊び方を具体的に教える(情報提供)



## 事例(4)

- 担任が母親に対して、学校での気になる行為をやんわりと指摘したつもりだった。
- 結果として気分を害したらしく、一度担任と疎遠になった。
- しかし、家庭でも困っているらしく、自ら相談の場を探しているらしい。
- 家庭内でも孤立し、つらい立場にある様子。

# 話し合いを継続する

- 親の悩みに応える姿勢

「いつでも相談にいらしてください」

- 良いことをまず報告

できていることから話題にし、残された問題を話し合う

- 親のがんばりを評価する

親の努力を積極的に誉めること

- 次回までの対応をきめる

できることを約束し、次回の日にちをきめること

あせらず、できることを評価し、時間をかけて対応

# 事例(4)の場合

- 親の悩みに応える姿勢

担任以外にも対応できる職員を紹介。役割分担

- 良いことをまず報告

「今週、こんなことができるようになりました」

- 親のがんばりを評価する

一緒に話し合いをすることで、担任も助かっている

- 次回までの対応をきめる

「もう大丈夫」と申し出ても、相談継続(頻度を減らす)

どんな状況・内容でも、学校(園)は母親の味方!

## 2. 保護者と連携(理念)＝協働作業

- 保護者の立場を尊重する
- まず聴く
- 保護者の願いを知る
- 解決のゴールを共有する
- お互いの立場でできることを考える

原因追及より解決を優先する

- 情報は事実の共有

主観や意見を排除し、時系列的に事実を確認する(後述)

立場の違いを認め合い、ビジョンを共有し、それぞれができることを考える

# 対話：対応の基本(1)

- 訴えをじっくり聴く
  - 頷く、話を復唱する、最後まで聞く(話の腰を折らない)
- 状況、言動、結果を整理する
  - どんな場面で、何をした(言った)、その結果
  - 例)「うちの子が〇〇先生にひどいことを言われた

何の時間に、何をしているとき、どういう状況  
何を言った、したのか具体的に  
その結果、生徒はどう反応したのか

# 対話：対応の基本(1)

- 訴えをじっくり聴く
  - 頷く、話を復唱する、最後まで聞く(話の腰を折らない)
- 状況、言動、結果を整理する
  - どんな場面で、何をした(言った)、その結果
  - 例)「うちの子が〇〇先生にひどいことを言われた

国語の時間、生徒がおしゃべりをしていた  
「みんなの邪魔になることはするんじゃない」  
おしゃべりはやめたが机に伏した

# 対応の基本(2)

- 結果のふり返し
  - 教師の対応(したこと)は、生徒にとって有効だったか
- 教師の意図を説明する
  - 教師は、どういう目的でそのような言動をしたか

結果(生徒の態度)から、教師のしたことが効果があったかどうかを判断する  
教師の意図を説明する

# 対応の基本(2)

- 結果のふり返し
  - 教師の対応(したこと)は、生徒にとって有効だったか
- 教師の意図を説明する
  - 教師は、どういう目的でそのような言動をしたか

おしゃべりをやめさせることには有効と言えるが、素直に自分の非を認めさせることには有効ではない  
教師は、授業に集中して欲しかった(傷つける意図はなかった)



# 対応の基本(3): 解決に向けて

- 気持ちを受けとめる
  - 親の気持ち・生徒の気持ちを受けとめる
- 謝罪する・提案する・説明する
  - 非がある場合は至らない点を認める
  - 今後の改善策を提案する
  - 学校のルールを冷静に説明する

「心情や立場を十分理解していなかった」  
「今後は何が問題かを冷静に伝えて注意する」

非がない場合は、学校のルールと手続きを淡々と説明する

# 対応の基本(4)

- 合意形成
  - － 保護者の意見を聞く
  - － 必要に応じて改善案を修正変更する
- 終結
  - － 保護者の対応を評価する
  - － 今後の学校の対応を約束する

子どもが数学は苦手だと言っている  
→ よりわかりやすく説明します。  
こうして話し合いができてよかった。  
今回約束したことはしっかり実行します。

# 親を支援する(1)

- 相談の窓口を作る

話しやすい関係、設定、複数手段の確保

- まずはじっくり聴く

相手に関心を持つ、相手の立場に立つ

- 一緒に考え、必要に応じて情報提供 療育教室

ほめ方・叱り方・聞き方、遊び方、しつけ・・・

- 必要なら専門機関の紹介を

情報提供。一緒に行くことも検討する

# 様々な親支援(2)

- 情報提供

福祉制度、特別支援教育、専門機関など

- かかわり方の見直し

聞き取りから、状況→問題行動→対応→結果を示す

- 遊びの宿題(幼児)

園での遊びの情報、子どもと遊べる教材・本の提供

- 生活の見直し

話し合いを元に、「親版支援計画」の作成

寄り添える相談相手、身近な支援者、頼れる肉親

# 本来の「あなた」を大切に

- 人はさまざまな「役割」を演じている

先生、課長、チーフ、主任、・〇〇さんの奥さん・・・

- いつしか「〇〇ちゃんのお母さん」の役だけ演じている

「私って、なんていう人だったかなあ????」

- 結果、自分の生き方に自信が持てない人が増えている

自己肯定感の低下。そのためにしがちなことは...

本来のあなたの姿、生き生きと  
活動(仕事、趣味)している親を見て、子どもは自立する

# 苦情対応

関根(2015)

- 保護者の申し入れは、まずすべて「苦情」として受け入れる
- 相手は困っているのだから、話は素直に聞く
- 話している間、話の腰は絶対に折らない
- 対応は誠意を持って(正直に話し、実施する)
- 正しいと思われる判断をしつつ、管理職に報告
- 悩んだときは、管理職や同僚以外にも相談

# 良好なコミュニケーション？

1. 相手を見ない
2. 相手を批判する
3. その批判から自分を守る
4. 相手を見下す
  - 2、3、4の繰り返し
5. 沈黙する、無視する

1. 相手を見る
2. 修復の試み(冗談、笑いを誘う)
3. その場を離れ、クールダウンする

# 良好なコミュニケーション(1)

## 好ましくない対応

- 名前を呼び捨てにする
- お互いに押さえ込もうとする
- 相手の発言を遮る
- 批判し続ける
- 相手の攻撃を防衛する

## 好ましい対応

- 悪意のないことばで怒りを表現する
- 怒っている理由を説明する
- 順番に言い合う
- 良いところと悪いところを指摘する
- 自分の考えと一致するかどうか注意深く聴き、同意できないときは静かにその旨を伝える

ことばで表現、具体的な説明、順番に、  
善し悪しを区別、意志をはっきり



# 良好なコミュニケーション(2)

好ましくない対応

- 大げさに言う/説得する
- 視線を逸らす
- 皮肉っぽく言う
- 話題から離れる

好ましい対応

- 端的に短く発言する
- 相手の目を見て発言する
- ふつうの調子で言う
- 一つの話話を話し終えてから次の話題に進む

話題はひとつに限定し、端的に、目を見て話す

# 良好なコミュニケーション(3)

好ましくない対応

1. 最悪のことを考える
2. 終わったことを蒸し返す
3. 他人の心を読もうとする
4. 命令する
5. 黙っている

好ましい対応

- 心を開き結論を急がない
- 現在の問題について話し合う
- 相手に意見を聞く
  
- お願いする
- 自分の気持ちを口に出して言う

急がず、今の問題を、相手に聴きながら、丁寧に

# 良好なコミュニケーション(4)

好ましくない対応

1. かつとなる
2. わざわざ大事のように取り上げる
3. 相手のすべてを否定する
4. 小さなことについて小言を言う

好ましい対応

- 10数える、歩く、リラックスする、部屋を出る
- まじめに取り上げる
- 相手の意見や存在を認める
- 完璧でないことを認める、大目に見る

冷静に、熱くなったらクールダウンし、長期的展望で

# 話を聴く3つの原則

- 積極的に話に耳を傾ける

相手の話に関心を持ち、ひたすら相手の話を聴く  
「もう少し詳しく」「どういうこと」など、質問する

- 相手の感情や気持ちを受け止める

相手の感情に近づき、ともに感じること  
「悲しかったのですね」など、受け止めること

- 相手の感情や気持ちを理解する

相手の考えを尊重し、理解すること  
「あなたは〇〇と考えているのですね」

聴く、受け止める、理解する

# 積極的傾聴スキル

1. 子どもの話に集中する
2. アイコンタクト
3. 子どもの話に関心を示す
4. 胸襟を開き、理解しようとする
5. 丁寧に質問する
6. 大事な点は繰り返す
7. 好ましい発言や行動を強化する
  - 自己解決法
  - 自己肯定感

# 3. 相談業務からのヒント

# コンサルテーション

- コンサルテーション: 教師が聴き役となり、一緒に問題を解決する
- 協働作業による問題解決
  - お互いの立場を尊重し、解決志向で話し合う



対話を通して一緒に問題解決する

保護者

# 教師のの姿勢

- 相談者を尊重する: 対等な関係
- 相談者の問題や考え方に関心を持つ
- 問題の詳細を知ろうとする

丁寧に質問し、受容する、(共感する)

- 相談者にとって役立つ情報を提供する

押しつけない、一緒に調べる

- 自分の問題として解決しようとする

悩みを共有する

同じ立場で、でも自分を見失わないこと



# ポイント(1)

- 相談の場の設定

場所、配置、設定

- 相談者のニーズの分析

解決したい？ 聴いてもらいたい？

- 相談者の問題意識

解決にどれだけコストをかけられるのか？

- 主訴を明確に

困っている問題を具体化、優先順位

# ポイント(2)

- できそうな目標をきめる

「ねばならぬ」より、「できる」目標

- できそうな対応を提案し、相手に選んでもらう

情報を提供し、押しつけない

- できてくることを意識させる

マイナス面を聞き流し、できていることを聴く

- できている行動の記録を認識してもらう

実践による子どもの変化に敏感になる

# これをまとめると・・・

1. 対話
2. 気づきを促す(問題意識)
3. 相談者の自覚(目標)
4. 実行の具体策(支援など)
5. 気づきを促す(変化)
6. 相談者の自覚(成長)

対話による「気づき」と「自覚」  
主体的な学びによる「自己理解」と「自己肯定感」

# これをまとめると・・・

1. 対話

信頼関係の構築。信頼関係のある人

2. 気づきを促す

情報の提示。悩み・問題・今までの対応と結果など

3. 相談者の自覚(目標)

達成可能な目標、とりあえずできること

4. 実行の具体策

本人が受け入れられる支援の提案、合意形成

5. 気づきを促す

変化、うまくいったこと、その理由などの振り返り

6. 相談者の自覚

自分自身の見方を変える。成長の実感。自己肯定感

# 事例

- 母:「うちの子、自分の思い通りにならないと、すぐにキレちゃうんです」「先生、どうしたらいいでしょう・・・」

# 事例の場合

## 1. 対話

家庭での子どもの様子をさまざまな角度から聴く

## 2. 気づきを促す

キレル状況、本人の様子、今までの対応、その結果

## 3. 相談者の自覚(目標)

今までとは違う対応、できそうなこと

## 4. 実行の具体策

保護者が受け入れられる支援の提案、合意形成

## 5. 気づきを促す

変化、うまくいったこと、その理由などの振り返り

## 6. 相談者の自覚

保護者自身の見方が変わる。自信。自己肯定感

対話により自身の問題を俯瞰する  
今までの対応を客観視し、別の対応に気づけるようにする

# 4. 困難事例

コミュニケーションが難しい要因

# さまざまな障害、疾患(参考)

- うつ(気分障害)

極端な落ち込み、ハイテンション

– 薬物療法、認知行動療法など。軽視しないこと

- 不安障害

漠然とした不安。パニック

– 心理療法、行動療法

- 強迫神経症、PTSD

何かに追い立てられる症状  
フラッシュバック

– カウンセリング、薬物療法

- 統合失調症

幻覚、人格の変調

– 医療による治療中心＋社会復帰

変化に気づき、専門機関と連携して対応



# 反応性アタッチメント(愛着)障害

- 生後5歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害
- 二つの群
  - 抑制型: 人とかかわろうとしない。ASDに類似
  - 脱抑制型: 落ち着きがない、整理整頓が苦手、すぐけんかするなど。ADHDに類似

(ADHDとの区別がむずかしい)

RAD: 裏表がある。人の顔色をうかがう。巧妙にウソをつく。  
親がいるいないで態度が違ふ。

# アタッチメント

- 情緒的なつながりや絆と言うより、  
「いざとなったら(養育者と)接触できる、  
助けてもらえる、安心できる」という結びつき

# RADへの対応

- 疑わしきは児相に通報を

虐待は違法であり、止める義務がある

- 児相と連携して対応([参考: 児童発達支援センター](#))

学校が中心ではない。教育には限界がある

- 学校ができることを実施する

子どもができることを認め、自己肯定感を育てる

ADHDへの対応とは違った対応が必要です  
マイナスからのスタート。心のケア(信頼関係の構築)

# プロとしての構え(虐待に対して)

- 主訴を見極める

親も悩んでいることを理解し、悩みを共有する

- 規則を前面に出す

その行為が違法であり、止める義務がある

- 周囲と対立しない

一人では解決できない。仲間を大切に

- うまくいかないことを覚悟する

すぐに結果を求めず、長期戦で

# 外傷性(複雑性)発達障害 (岡田、2006)

- 母親の精神的な問題(うつ、双極性障害、適応障害、境界性パーソナリティ障害など)が、子どもの心や行動、発達に問題を起こす
  - 多動と学習上の問題、攻撃行動、反抗、いじめ、不登校、虚言、盗癖、非行、うつ、不安、依存症、性的逸脱
- 子どもの年齢が小さいほどその影響は大きく、後の人格形成に重大な影響を及ぼす

心理的虐待によるRADのようであるが、RADではない  
母親のメンタルヘルスへの支援の必要性(US)  
家族支援

# 病んでいる母親への支援

- 丸ごと受け止める

「子育てで悩んでいませんか？」

- よいところ探しをする

完璧主義→子どものよいところを見つけ、反応する

- 生活の秩序を保つ

子どもが安心して過ごせる環境

- 親の病気や事情を理解する

親の状態を解説し、安心と秩序を与える

# (続き)

- 本当の気持ちを大事にする

子どもの想いを感じ取れるように支援する

- 母親自身が社会とつながる

母親が元気になれば、子どもも元気になる

- 場合によっては距離をとる
- 親の呪縛を解き放つ

学校でできることは少ないかもしれない  
しかし、話し相手になるなど、できることはあるはず

# 境界性パーソナリティ障害(BPD)

- 見捨てられることへの極端な不安、思い
- 対人関係が両極端で不安定
- めまぐるしく気分が変わる
- 怒りや感情のブレーキがきかない
- 自殺企画や自傷行為を繰り返す
- 自己を損なう行為に耽溺する
- 心に絶えず空虚感を抱く
- 自分が何であるかわからない

岡田(2009)

カウンセリングが効かない。深入りせず専門機関へ



# BPDを支える

- 同じスタンスで向かい続ける

同じペース・距離を保ち、関心を注ぎ続ける

- 本人の主体性を重視する

自己決定、自己責任が基本

- 目的と枠組みを明確にする

方法にこだわるのではなく、目的を追求すること

- 穏やかで冷静な態度をとる

過剰反応しない(「そういう言い方はしない方がいい」)

ルールをきめ、ルールに従って、チームでかかわってゆく

# 続き

- 先入観や推測できめつけない

客観的な行動や状態を純粋な目で見ると

- 心の中で否定していないか

本人の立場や心情に近づこうと努力する

- 中立な態度で接する

専門家として、仕事として、この時間だけ

- 激しい感情を受け止める

感情を受け止め、視点を切り替え、状況を客観的に整理する

# 対応理念

- 最下位のチームをコーチするつもりになる

専門家としての技量、そして情熱

- どんな事態にも動じず、安心させる

「一人で悩まなくていい」「一緒に考えていこう」

- 逆転の発想を刷り込む

過去は変えられないけど、未来は変えていける

- 優れている部分に焦点を当てる

悪いところはあえて触れずに、  
できていることを評価する

# 5. まとめにかえて



# インクルーシブ教育システムに向けて

## 1. ガバナンスの強化

– ミッション、ルールと基準、対応手続き

## 2. 説明責任と情報公開

– 「1」の説明と対応結果の公開

## 3. 校内体制整備

– 合理的配慮など対応組織。教育の場の整備

## 4. 教員の役割分担

– 特別な指導実施の役割分担(強みを生かす)



# インクルーシブ教育システムに向けて

## 1. ガバナンスの強化

特別支援教育実施の具体像を示す

## 2. 説明責任と情報公開

特別な指導適用の基準と手続きを示す

## 3. 校内体制整備

特別な指導や支援を実施できる校内体制構築

## 4. 教員の役割分担

発達障害の児童生徒への教育支援体制の整備のための  
ガイドライン(H29改訂)



# 教師に求められること(私見)

- 視野の広さ
  - 物事を多角的、包括的にとらえること
- 話しやすさ、聞き上手
- 教えてもらう謙虚な姿勢
  - 「問題」のある人から、その「問題」を教えていただく
- 頼れる相談者(SV)、地域のネットワーク
- センスを磨く
  - 文学に親しむ。「聴く」訓練

# 長澤研究室



特別支援教育・発達障害の情報  
講演会の資料

